



# 今、できることは何か

本日、2学期始業式でお話ししたことを紹介します。



## 「2学期始業式 校長講話」

今日から2学期がスタートします。みんなはどんな夏休みを過ごしましたか。1学期の終業式でお話ししたことを覚えていますか。何度も何度もあきらめない強い気持ちで何かに挑戦してほしいと思いました。できたでしょうか？

さて、今日からまた、学校での生活が始まります。どんな2学期にするかはみんなにかかっています。そこで2学期の始まりにあたって「今できることは何か」ということについてお話ししたいと思います。2学期には大きな行事もたくさんあります。みんなには活躍する場面が数多くあります。学校の主役は言うまでもなく君たちです。様々な場面でどうしたら集団がさらに良くなるか？よくするためには「今自分に何ができるだろうか」と考えられる人になってほしいということです。学校や先生が生徒のために何かしてくれるのを待つのではなく、生徒であるみんなが「学校のため、仲間のために何ができるか」という風に考える、そんな発想の転換をしてほしいと思っています。ここにいる人がそれぞれ「自分に何ができるか」を考えて行動すれば、これは相当すごいことになると思います。あっという間に学校はさらに良くなると思います。これが「自立」の力です。この夏休みにそんな力を発揮してくれた人たちがいます。

8月23日に「おおさか 子ども市会一中学生市会一」がありました。子ども市会は、次代を担う子どもたちに市政の概要を理解してもらうとともに、市政についての意見を発表してもらうことを目的としています。市会議場で市長をはじめ市政関係者に、直接自分たちの意見を発表するという大変貴重な機会です。こういう場があることを生徒会担当の先生から生徒会に伝えてもらったところ、参加したいということになり、生徒会4人で様々な意見を出し合い、まとめ、応募をしました。その結果、大阪市で81名の子ども議員に生徒会4人を代表して河田さんと工藤君が選ばれました。夏休みに数度、実地調査学習会に参加し、意見をまとめました。今年の全体テーマは「万博開催都市の中学生として、大阪市に臨むこと・自分たちにできること」で、2人は「**外国につながる市民の多様な文化が尊重される社会について考えよう**」というテーマのもと当日、市長に対して代表して河田さんが意見を発表し、市長からの答弁を受けることができました。河田さんが発表した内容は以下に紹介します。

何よりも生徒会メンバー全員がこういう機会に積極的に挑戦してくれたことを校長先生は誇りに思います。

どうかみんなも「今できることは何か」を考えながら2学期を過ごしていきましょう。

鶴見区 大阪市立横堤中学校 河田 陽音

現在、大阪市に住んでいる外国人の地域イベントへの参加率は50%以下になっています。その理由として、活動自体を知らない、興味がないと書いてありました。それを改善する為に私たちができることとしては、各地域でのポスター作りです。よく見かけるポスターでは漢字が多く使われており、外国の方が理解するには難しいところがあります。そこで、絵や図が主体となった、誰が見ても分かりやすく伝わるポスターを作ろうと考えました。例えば二次元コードで多言語設定をしたHPに飛び、日時を伝えたり、やさしい日本語を使ったりすることです。

住んでいる外国の方に向けてのポスターコンテストを開催し、より大阪市全体を盛り上げたいのですが、そのようなことは可能でしょうか。市長ご答弁をお願いします。

